

工事関係者にインタビュー

---工事にあたって最も苦労したことは何ですか。
「2017年度の雨の影響により、工事が思うように進みませんでした。高低差が大きいため材料の運搬に苦労しました。」

---あれだけの材料の運搬は大変ですね。どうやって運んだのですか？

「背負って木材を運びました。」

---それはごくろうさまでした！！では、この登山道を通る登山者の皆様にひとことお願いします。

「久住山は、初夏のミヤマキリシマや秋の紅葉など、季節毎に様々な景色を楽しむことのできる大変魅力的な山です。ただ、一方で、登山には、急な天候の変化や転落・転倒等の危険があることを忘れてはいけません。安全に十分配慮をいただきながら、登山を満喫していただけますようお願いいたします。」

この登山道を管理している、大分県生活環境部自然保護推進室のご担当の方にうかがいました。ありがとうございました。



04 崩壊地を迂回し、新しい階段へ



以前から深くえぐれた歩きにくい道でしたが、2016年の熊本地震の影響で崩壊し、修復工事が行われ、2017年12月に開通しました。新しい道は、はじめ右下に下ってから、以前の登山道をやや東に迂回する形で登りなおします。急坂なことは変わりませんが、階段が設置されて格段に歩きやすくなりました！



05 ミヤマキリシマの間を久住山頂へ



▲6月上旬はミヤマキリシマが満開に
▲山頂の標識で記念撮影

登山道はいよいよ急になっていきます。岩をよじ登るような場所もありますが、6月上旬であれば満開のミヤマキリシマが励ましてくれるでしょう。稲星山方面からの道と合流すると、左へ進みすぐに山頂へ到着！眼下には荒々しい硫黄山の噴気活動が見下ろせ、由布や雲仙まで見渡せます。お疲れさまでした！

安全な登山のために 必ずお読みください！

赤川～久住山のルートは、久住山への最短距離ですが、距離が短いということは他のルートに比べて急であるということです。安全な登山のために、次の注意事項を必ずお守りください。

・登山届は必ず提出を！

登山口に用紙と提出箱があります。あらかじめ計画を立てて登りましょう。また、計画を必ず家の人などに伝えておくことも大切です。

・早めの行動を！

途中で暗くなってしまうように、余裕をもって早めに出発しましょう。このコースで午後になってからの入山は危険です。

・雨具、ライト、地図、非常食、防寒着を携行！

雨は降らないから、暗くならないうちに帰るから、夕ご飯は家で食べるからというつもりでも、いざというときに対応できるようにしましょう。

・きついときには引き返す！

思ったよりも道がしんどい、想定よりも時間がかかった、といったときは、潔く山頂をあきらめて引き返しましょう。山は逃げません。

下山はどのルート？

久住山からは、登山道がいろいろな方向についています。どの道で帰るかは、あらかじめ決めておきましょう。（時間は目安です。個人差があります。）

A 来た道を引き返す

阿蘇や祖母傾の眺めを楽しみながら下ります。山頂→赤川登山口；約1時間30分

B 扇ヶ鼻を通る周回コースで赤川へ

標高1698mのミヤマキリシマの名所・扇ヶ鼻を経由して、もとの赤川登山口に戻ります。山頂→扇ヶ鼻→赤川登山口；約2時間20分

C 久住分れを通過して牧ノ戸峠へ

西千里ヶ浜をのんびり歩いて牧ノ戸へ。牧ノ戸峠には由布院、熊本、九重町方面へのバス停があります。山頂→牧ノ戸峠；約1時間35分

D 諏峨守を越えて長者原へ

硫黄山の噴煙を眺めながら岩の道を下ります。タデ原湿原・長者原に到着です。山頂→長者原登山口；約2時間20分

E 神明水から南登山口へ

神明水の水場を経て久住高原へ。くじゅう花公園の前に出ます。山頂→南登山口；約2時間40分。



いつもと違った登山ルートを歩いてみよう！
片道約2時間30分

赤川登山口～久住山

1,050m

1,786m

深田久弥は、著書「日本百名山」で、くじゅうを「久住独裁国ではなく九重共和国」と解説したうえで、「何といっても品格のあるのは久住山である。さすが九重一族の長たるに恥じない。」とたたえています。久住山の魅力は、山頂からの雄大な眺めや登山道沿いの可憐な花々などがあげられますが、1つにしぼることはむずかしいかもしれませんね。久住山は、ミヤマキリシマの平治岳や紅葉の大船山のように特定の季節に人が集まるのではなく、一年を通して多くの人を迎え入れる懐の深さをもった山ではないでしょうか。

久住山へは、各方面から登山道があります。最も利用者が多いのは牧ノ戸峠からでしょう。一方、最も距離の短い赤川登山口からの道は、2017年12月に復旧工事が終わり、新しくなりました。いつもと違ったルートから久住山を目指してみませんか。

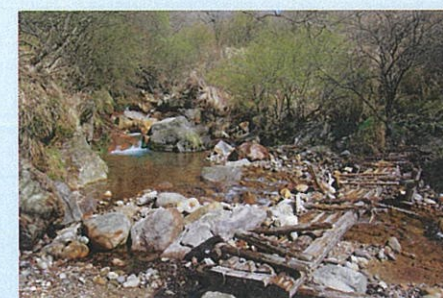
01 赤川登山口



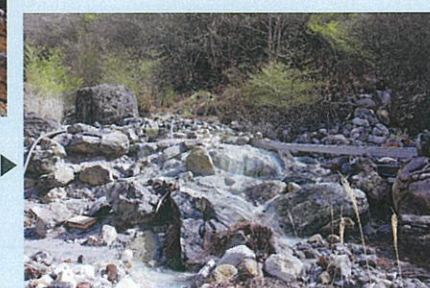
国道442号から赤川温泉方面へ入ります。およそ1.5kmで駐車場とトイレのある赤川登山口。準備運動をして登山届を記入したら、ゆっくり歩き始めましょう。



02 沢を渡って 温泉湧出口



▲木の橋で沢を渡ります
湧出口周辺の独特の景観▶



03 林道を横切る

赤川登山口からは初めのうちは緩やかな森林の道です。沢を渡ると、赤川温泉の源泉湧出口を見たり、林道を横切ったりしながら高度を上げていきます。初夏にはドウダンツツジが多い道で、肥前ヶ城の見事な柱状節理が眺められます。

◀登山道から見る肥前ヶ城

